

## 自主防災組織の活動に対する練馬区民の意識調査 —市民の防災力向上に向けて その5—

正会員 ○ 久木 章江\*1  
正会員 石川 孝重\*2

自主防災組織 練馬区 防災活動  
意識 防災訓練 防災

### § 1 はじめに

前報に引き続き、練馬区を対象とした自主防災組織の活動に関する調査報告を行う。本報では、自主防災組織の活動の運営者、参加者、非参加者を対象としたヒアリング調査を行い、自主防災活動、防災力向上に向けた様々な活動への市民参加、継続参加などの活性化につながる要因について分析する。

### § 2 ヒアリング調査の概要

2005年に練馬区で実施された防災住民組織の活動時(詳細は前報と同様)に、訓練参加者47名(組織の運営スタッフを含む)にヒアリング調査を実施した。

調査内容は、訓練に参加したきっかけ、参加した感想と効果、訓練内容や運営方法に対する意見、訓練を知った理由やこれまでの参加経験、今後の継続意思、防災に対する意識、実施している備えなどである。

さらに訓練に参加したことがない20代の練馬区民7名を対象に非参加の要因についてヒアリング調査を行った。

### § 3 防災訓練参加者の意識

訓練に参加したきっかけは、「防災に関心があり、知識を得たかったから」という積極的な目的で参加した人が多かった。次いで「自治会の役員だから」「知人が役員で誘われた」といった関係者による勧誘などがあげられた。

また訓練の情報を得た媒体としては、大部分が小中学校で配布されるプリントと、町会の回覧板をあげた。防災に対する意識が高い市民の場合は、情報があれば訓練の参加につながると考えられるが、一度目の参加については知人の誘いや子供の希望など、他や口コミによる影響も大きい。二回目以降は、一度目の参加により防災訓練の意義を実感した人と、「何度か経験を重ねないと覚えられない」という不安によるきっかけが挙げられた。

訓練内容に関する評価では、全体的に体験型の訓練の評価が高かった。特に大人の場合、「役に立つ」「ためになる」という実感の得られた訓練の評価が高く、心肺蘇生や救急蘇生の訓練も評価が高い。

なお、「今回体験した訓練のうち、一つだけ削るとしたらどの訓練か」という問いについては、全員が「ない」「すべて必要」と回答し、参加者には訓練の必要性や意義が伝わったものと考えられる。

体験型の訓練は「何回も体験して覚えるべきである」

「実際に使えるように継続的に体験すべきである」など、継続参加に関する意見も多く挙げられた。よって、継続参加につながる一つの要因には体験型の訓練内容を取り入れるのも効率が高い。また、訓練項目以外で継続参加につながる要因には、「話がわかりやすい」「効率的な訓練」「体験型の訓練を全員体験できる」「参加者に対する配慮がある」などの意見も挙げられた。

なお、「市民として行うべき防災はどのようなことか」という問いについては、「自分の身を守る」「家族の身を守る」「2,3日は持ちこたえるよう備蓄する」など、自助努力を挙げている。そのほか、「近所の人との助け合い」「各家で火事を出さないようにする」「避難経路の確認をしておく」なども挙げられた。

さらに、日頃から実施している災害対策としての備えで最も多く挙げられたのが「防災用品の準備」、次いで「避難場所を知る」「家具の転倒防止策」「風呂の水のため置き」であり、「防災訓練への積極的な参加」を回答した人は4名であった。

また、居住地域に対する自主防災組織の有無を質問した結果、半数以上が「わからない」と回答し、ほとんどの住民が認知していない結果となった。防災訓練などのイベントを広報するだけでなく、自主防災組織の意味なども区民に伝え、自助のみでなく、共助による減災ができるよう、地域の防災力を高める努力が必要であろう。

なお、参加のきっかけには広報の影響が大きいいため、幅広い年齢層の参加者を集めるためには、各世代に向けた適切な広報を行うか、誰もが目にする媒体で広報することが必要である。参加者の意見としては、区報や地域の回覧板・掲示板での情報提供が期待されているが、これらは10,20代の世代には認識され難い可能性がある。

### § 4 防災住民組織の運営スタッフの意識

練馬区の防災活動を実行している組織の運営スタッフが抱えている問題点や課題を明らかにするため、組織の役員を対象にヒアリング調査を行った。

役員になったきっかけは、「町会からの推薦」や「近所の人に誘われた」というものが大部分で、防災に対する意識が高かったからといったきっかけの人は少ない。

また「これまでの訓練で、メニューに組み込んだら参加者が増えた」と感じた項目を質問した結果、消火訓練、

炊き出し訓練、起震車体験が挙げられた。

一般住民の参加については「もっと参加して欲しい」「参加が少ないので、いざというとき連帯で行動できるか不安である」という意見や、「参加は少なくともいいので地域の防災リーダーを育てたい」という意見があった。

現在の組織の役員は高齢者が多く、20年以上の経験者も少なくないが、次を担う若いリーダーがいらない点も大きな問題点である。そのほか、組織を運営していく上で問題点として、「住民の防災意識が低い」「訓練の理解度が低い」「自主的な行動や助け合う精神が足りない」といった点も挙げられた。

参加者の不足については、小学校のPTAなど、ある特定の住民に向けた広報を行っていることも原因の一つである。組織が住民に行っている働きかけを表1に示す。

広報の手段には回覧板を使う組織が多い。しかし、最

表1 組織から住民に行っている働きかけ

回答者の所属	組織の存在や活動を知ってもらうためのやっていること	活動への参加向上のためにしている工夫について	市民に対してどのように活動を知らせているか
町会防災部	パトカー使用して行う(町会)	レスキュー的な活動をしてみたい	回覧、町内のパトカー
団地自治会	地域の消防署に協力してもらって講演や実技指導訓練を行っている。	特になし。楽しんで参加できる内容を考えたい。	回覧板と掲示板
町会防災会	若い人でもいから協力して欲しい。	話し合っているが、実行には移せていない。	回覧板で知らせる。
町会			回覧板
町会防災会	回覧板を回したり、掲示したりしています。またバザーなども同時に行って興味を持ってもらうようにします。	バザーetc. 同時に開催しています。	回覧板など
町会	どう配り、回覧	回覧、掲示板	回覧、町内のパトカー掲示板
町会	多くの人に呼びかけている		回覧で
町会レスキュー隊	あらゆる手段を通じて知らせている	町会全員参加方式で取り組んでいる	回覧板、掲示板、レスキュー隊を直接連絡
町会	町会だより(月1回)を通して	町会だよりおよび組織員の持ち回り	町会だより
自治会防災部	回覧。子供を集めて「年末夜警」の催しをするなど。	お祭り、小学生と住民との「ふれあい広場」、敬老のつどい等々の一般的な活動を通して住民同士が知り合いになることからはじまるものだと思っている。	回覧
町会	年間の内、何度か練習をやる様にしてあります。	生活があります、仕事をしています、年令的に高齢になっています。やはり若い方、大学生に考えて頂ければ幸いと存じます。	区、行政機関から知らせがあれば、町会にて観覧して知らせます。
町会	町会	なし	町会だより
青年部	回覧板等で各家庭に知らせる	特に行っていないが、炊き出し訓練等、災害には欠かせないものを行ってみたいと思います。	回覧板等で知らせている。
町会	訓練参加への宣伝		町会回覧、ポスター等
町会中部防災部	毎月1回定例の消火活動訓練を実施しています。口づたえでの参加も呼びかけています。	2~3ヶ月に1回程度皆で集まって話し合いをしています。防災話より町の話から入っていき、個々の意識疎通をはかることにしています。	町会の「カインパン」等、チラシ等
練馬区く防災・安全>教育推進協議会心のあかりを灯す会	毎年1月17日近辺の土曜日に「心のあかりを灯す会」をし、広報活動をしています。又、会員は各々避難拠点運営委員としてもそれぞれの場で活動し、広報活動をしている。	子供に防災意識を持ってもらうことにより、親へとつなげている。次世代をになう子供たちにつかりと防災のことを勉強してもらおう。	練馬区報にのせる。ちらしを配布する。
防災委員会、避難拠点運営連絡会	基本的には掲示板、回覧板を利用したの宣伝。親しい人達を通じての口コミでの宣伝が多い。ただし、それをやってもすぐに変わるとは思っていない。長い時間と忍耐的な働きかけに尽きると思う。	PTAでの宣伝、町会とPTAをしているので、町会を通しての宣伝を一層熱心に訴え続ける事。	「震災の被害にあわれたとき、みなさんはどこに避難されますか?!」のお知らせやポスターでの呼びかけ。また「あなたにもできます。参加してみませんか?」etc. のチラシなどや町会で常に意識的に働きかけていきたい。

近は町会に入らない人も増加しているため、回覧板のみの広報では効果が十分でない点が指摘されている。

住民の訓練参加に対する工夫として「訓練と同時に別の催し物を行う」「防災訓練のみの参加ではなく、地域のコミュニティ作りとしての活動も同時に行う」など、住民同士のふれあいを作るなどの工夫がみられる。

§ 5 防災訓練不参加者の意識

自主防災組織の活動への参加が少ない20代を対象に、防災に対する意識や、活動不参加の理由を調査した。その結果、「訓練に参加するより、防災に関する情報が欲しい」など、情報を欲する意見が多かった。なお地域の防災訓練に参加していない理由には、「知らなかった(情報が入ってこない)」「日時があわない」と回答された。

§ 6 まとめ

大地震の際には住民の自助努力が必要であるが、共助として住民による自主防災組織の活動が期待される。

本報では練馬区の防災住民組織による防災訓練に参加し、参加者および組織の運営スタッフ、さらには訓練不参加者を対象にヒアリング調査を行い、その結果を報告した。

組織は一般住民に対して各種訓練の個別の重要性だけでなく、地域の防災力を高めることや共助の重要性を伝える必要がある。その上で、参加者をひきつける訓練の工夫が期待される。なお、参加者は体験型の訓練を必要と感じる傾向があるため、内容のバランスも考えながら、訓練計画を練る必要がある。

さらに現状では週末や休日に訓練を行うことが多いが、高齢者、専業主婦、幼児が大部分となる平日の昼間に地震が発生した場合でも、地域の防災力が期待できるよう、今後は平日の訓練も検討する必要があると考える。

その4,5の調査において、練馬区防災課および住民防災組織の皆様にご協力頂いた。深謝する次第である。

\*1 文化女子大学住環境学科 助教授・博士(学術)

\*2 日本女子大学住居学科 教授・工学博士

\*1 Assoc. Prof, Dept. of Dwelling Environment, Bunka Women's Univ., ph. D.

\*2 Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., Dr. Eng.